特集

乳腺外科の紹介



記：乳腺外科医長　荒田 尚

日本外科学会 外科認定医・外科専門医
日本乳癌学会 乳腺専門医
マンモグラフィー検診精度
管理中央委員会 読影医
日本 DMAT 隊員



左：荒田医長、
右：鳩野医師

2026年 4月、岩国医療センターの診療部門に29番目の診療科として乳腺外科が加わりました。これまで外科の乳腺グループとして乳がん診療に従事してきましたが、2022年 4月鳩野医師の着任に伴い乳腺専門医 2人体制となって以降準備を進め、このたび乳腺外科を標榜することとなりました。

どちらも岩国出身とあって、地元の乳がん患者さんに都市部に引けを取らない水準の診療を受けてもらいたいとの強い思いを持っています。

乳腺外科開設のメリット

乳腺外科開設は患者さんに 2 つの大きなメリットをもたらすと考えています。ひとつは、乳房の病気を心配されている皆さんが受診し易くなった点です。標榜科名に乳腺の文字が入っていることで受診先がわかり易くなり、手術日を月曜日に限定した結果、火曜日～金曜日の受診枠も増えました。当初、乳腺科とする案もありましたが､2 人とも出自である外科に軸足を置いているため、乳腺外科を選びました。

話を戻し、もうひとつは安心して専門科による診療を受けてもらえる点です。特に遺伝性腫瘍専門医でもある鳩野医師は、遺伝性乳がんの診療も得意としています。医療者側の視点に切り替えると、近隣医療機関の皆さまにとっては紹介先がわかり易くなり、予約をとり易くなり、大切な患者さんをより安心して任せられるようになるのではと期待しています。

乳がん患者さんの動向

岩国医療圏の人口は 2025年の国勢調査で12 万 5,055 人と、2020 年の前回調査から 1 万 104 人減少しました。全国より 10 年先行しているとされる高齢化率（年内公表予定）も気になるところですが、乳がん患者さんの動向に限って話を進めます。

岩国医療センターに通院可能なエリアとして柳井医療圏や広島西医療圏の一部も含めると、毎年 120 ～ 130 人が新たに乳がんを発症している計算になります。当院の新規乳がん患者さんは年間 90 人前後（ステージ 4 も含む）と増加してきたものの、依然、広島方面に流出している患者さんが一定数いるものと推測されます。専門医の数で診療レベルを論じるのはいささか乱暴ですが、山口県 11 名に対して広島県 48 名と、県内の乳腺専門医が圧倒的に少ないのは間違いありません。患者さん、近隣医療機関の皆さまの信頼を得られるよう、岩国医療センターで標準的な乳がん治療を受けられることを発信していかねばと考えています。

乳腺外科の診療

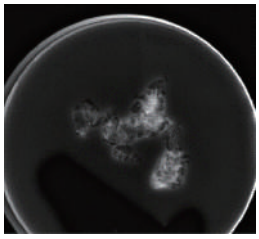
乳腺外科医は、手術適応がある患者さんでは診断から手術、補助療法を経て終診をむかえるまで、また転移・再発乳がん患者さんでは薬物療法や緩和ケアを一貫して担当します。

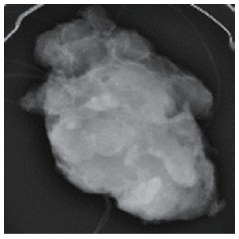
当院乳腺外科の特色をいくつかご紹介します。乳がん患者さんの多くはしこりを主訴に受診され、経皮的針生検で診断が確定します。時にしこりを触れない、乳房微細石灰化を契機として乳がんと診断されるケースを経験します。乳房微細石灰化を採取する手段としてステレオ

ガイド下吸引式組織生検があり、従来の切除による診断と比較し低侵襲となります。山口県東部では岩国医療センターでしか受けられない検査です。

【微細石灰化を含む組織の標本】

ステレオガイド下吸引式
組織生検で採取





従来の切除生検で採取

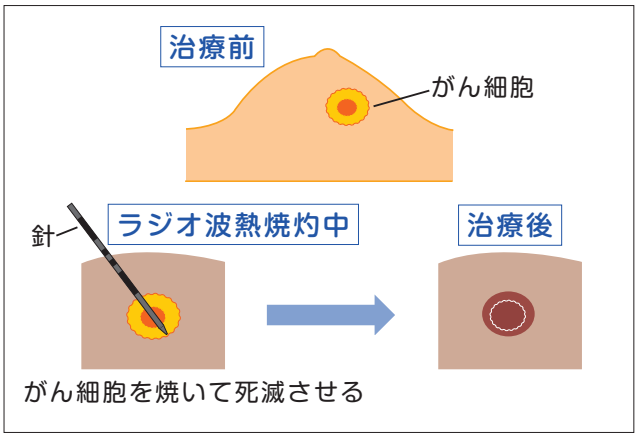
ステレオガイド下吸引式組織生検

- 少ない組織量で診断できる
- 手術瘢痕が残らない

術式に関しては、高齢化の進んだ土地柄が影響し、乳房温存率が低い傾向がみられます。ただし、乳房全切除術を選択せざるを得ないケースでは積極的に乳房再建を提案するよう心掛けています。昨年は形成外科と合同して10件の乳房再建術を経験しました。顕微鏡下血管吻合を要す、深下腹壁動静脈穿通枝皮弁を用いた高難度の乳房再建術は1件でした。

また、乳房にメスを入れない局所治療としてラジオ波焼灼療法をおこなえるのも当院の特色のひとつです。現時点では乳房温存手術のオプションとして位置付けられており、県下では当院を含め4施設が承認されています。

【ラジオ波焼灼療法】

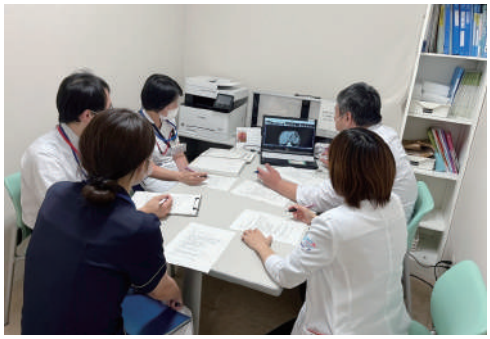


乳腺外科の取り組み

チーム医療

乳腺外科はチーム医療にも取り組んでいます。告知や治療方針を決定する診察にはがん認定看護師や緩和ケア認定看護師に同席してもらっています。必要に応じて心理療法士、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、栄養士に介入を依頼することもあります。

【カンファレンス風景】



特に転移・再発乳がん患者さんや妊孕性（妊娠するために必要な能力）が関わってくる若年の乳がん患者さんの診療にあたっては、アドバンス・ケア・プランニング※1という手法を用いて、患者さんの意思決定をチームでサポートしています。

※1…将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療、療養について患者、家族とあらかじめ話し合うプロセス

研修医・専攻医の教育

研修医、専攻医に対する教育も乳腺外科の重要な役割のひとつです。岩国医療センターは岡山大学広域外科専門研修プログラム、岡山大学広域乳腺外科専門カリキュラムに参加しており、外科専門医、乳腺外科専門医の育成に力を入れています。初期研修から4年間在籍した野坂医師は、今年4月乳腺専門医取得を目指し岩国から羽ばたいていきました。

また、9月には乳腺外科医を志す医学生の病院見学があり、当科にとって初めての経験でした。乳腺外科研修に興味がある医学生、研修医の皆さまは気軽にご相談ください。



これから

岩国医療センター乳腺外科を開設して半年あまりが過ぎ、これまで滞りなく診療をおこなえているものと考えます。受診していただいた患者さん、近隣医療機関の皆さまのご期待に沿えるよう、精一杯尽力いたします。

今後ともよろしくお願いします。